

# 土木学会 建設マネジメント委員会 研究成果発表会(2008年度) 報告

2008年9月12日  
研究問題検討小委員会

## 1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会(委員長:福田 昌史)では16の研究小委員会を設け、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2007年度の研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

## 2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表の通りである。

日 時：平成20年8月28日(木) 13:00～16:30

場 所：(社)土木学会 講堂

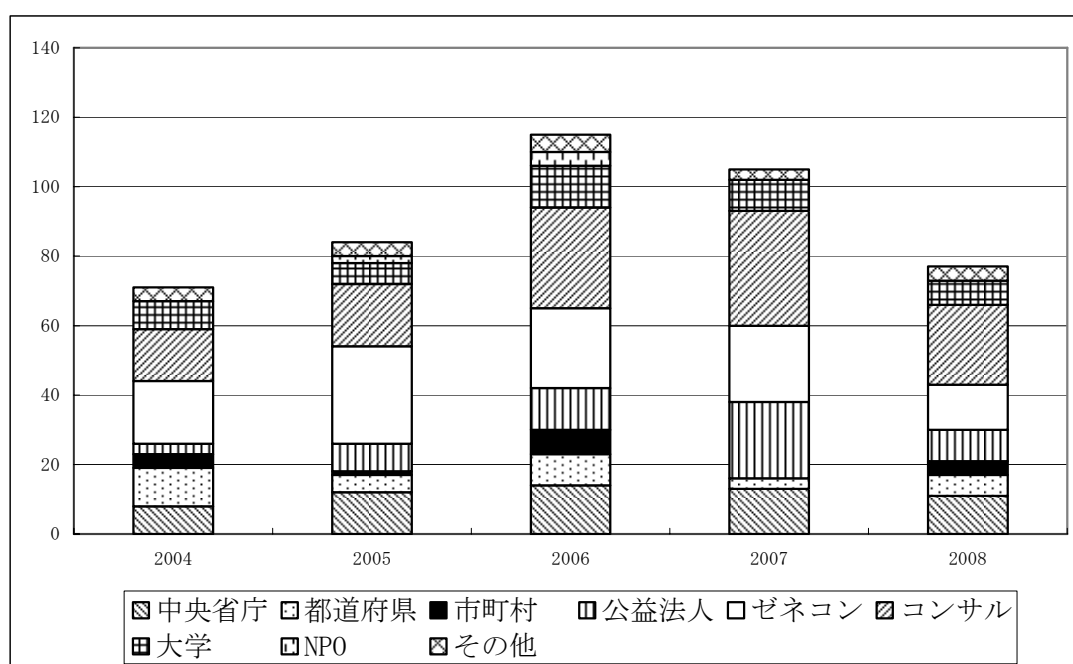
### 2008年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会 発表プログラム

研究成果発表会(2008年度)		
13:00～13:10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会：福田 昌史 委員長
13:10～13:20	土木技術者のための原価管理 問題と解説	原価管理研究小委員会 代 表：瀬戸 康平(奥村組) 発表者：井上 英司(大成建設)
13:20～15:00	インフラPFI事業のための技術的課題と その解決 ～適正なインフラPFIの実現に向けて～	インフラPFI研究小委員会 代 表：宮本 和明(武蔵工業大学) 発表者： ① 北詰 恵一(関西大学) ② 大島 邦彦(熊谷組) ③ 渡会 英明(建設技術研究所)
15:00～15:10	休 憩	
15:10～15:40	建設サービスの高度化時代における 技術公務員の役割と責務について	技術公務員の役割と責務研究小委員会 代 表：中村 一平(金沢工業大学) 発表者：伊藤 昌勝(ドーコン)
15:40～16:20	地方都市活性化を目指した都市再生事 業構想に関する地域マネジメント論的 研究 - 事例研究を通して -	地域施設マネジメントシステム研究小委員会 代 表：春名 攻(立命館大学) 発表者：春名 攻(立命館大学)
16:20～16:30	閉会の挨拶	研究問題検討小委員会：三百田 敏夫 小委員長

### 3. 参加状況

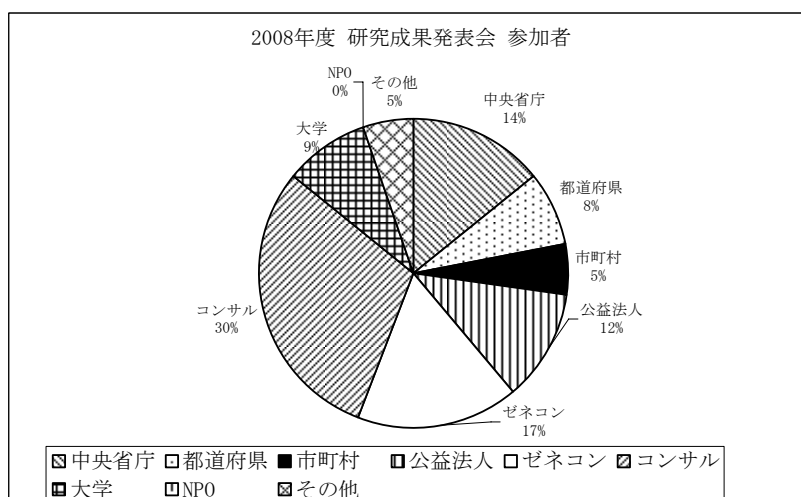
成果発表会の参加状況に関しては、事前申込（2008/08/25迄）が64名、当日参加等も含めた最終的な参加人数が77名と昨年度より減少した。

区分	2004	2005	2006	2007	2008
中央省庁	8	12	14	13	11
都道府県	11	5	9	3	6
市町村	4	1	7	0	4
公益法人	3	8	12	22	9
ゼネコン	18	28	23	22	13
コンサル	15	18	29	33	23
大学	8	6	12	9	7
NPO	0	2	4	0	0
その他	4	4	5	3	4
合計	71	84	115	105	77



2008年度

区分	参加者数
中央省庁	11
都道府県	6
市町村	4
公益法人	9
ゼネコン	13
コンサル	23
大学	7
NPO	0
その他	4
合計	77



－ 参加状況の推移 －



－ 発表会当日の様子 －

#### 4. 発表会に向けた取り組み等について

##### (1) 発表会に向けた取り組み

- 本年度は、発表応募のあった4つのテーマ（原価管理、インフラ PFI、技術公務員の役割と責務、地域施設マネジメントシステム）の研究成果に関して発表会を開催した。
- 発表会の約3週間前には、建設マネジメント委員会のホームページに開催プログラムを掲載するとともに、各研究小委員会の講演用テキストを適宜、掲載した。
- 閉会の挨拶では、建設マネジメント委員会の16の研究小委員会活動や研究小委員会開催のシンポジウム（ファイナンス手法、環境修復）の開催予定を紹介させて戴いた。
- 本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。（調査結果は後述）

(2) 発表会を終えて

- アンケート調査結果によれば『成果発表会に参加し、参考になった』と回答された方が70%を占め、多くの参加者の方に満足戴けたものとする。
- 参加者の年齢構成を見ると、30代～50代の方が88%を占めるのに対し、20代の方は5%と非常に少ない状況にある。建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、昨年度同様、若手技術者の参画に向けたPRも重要と考えた。
- 3.参加状況に示したとおり、参加者が減少した主要因としては、例年よりも広報活動が遅れてしまった点等が考えられ、次年度の研究成果発表会に向けては、本年度末より企画を準備するとともに、本年実現できなかったパネルディスカッション等、構成自体の改善を図りたいと考える。

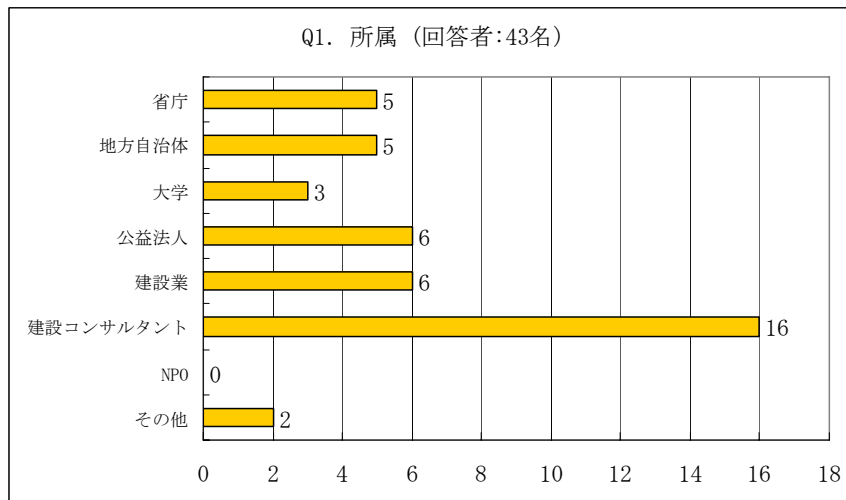
(3) 今後の方向性

- 先述のとおり、昨年度に引き続き、成果発表会に対するアンケート調査を実施した。本調査で得られた成果発表会に対する意見等を踏まえ、今後の委員会活動に反映できるようにフィードバックしたいと考える。(ex. 研究小委員会の中間報告書のWEB公開、論文査読要領掲載の研究分類に対する質問等)
- 前年度同様、研究成果発表会は土木学会（講堂）において開催したが、将来的には個別の研究成果に対してニーズの高い自治体等での研修会（有料）を視野に入れて、活動を拡大していくことが重要と考える。

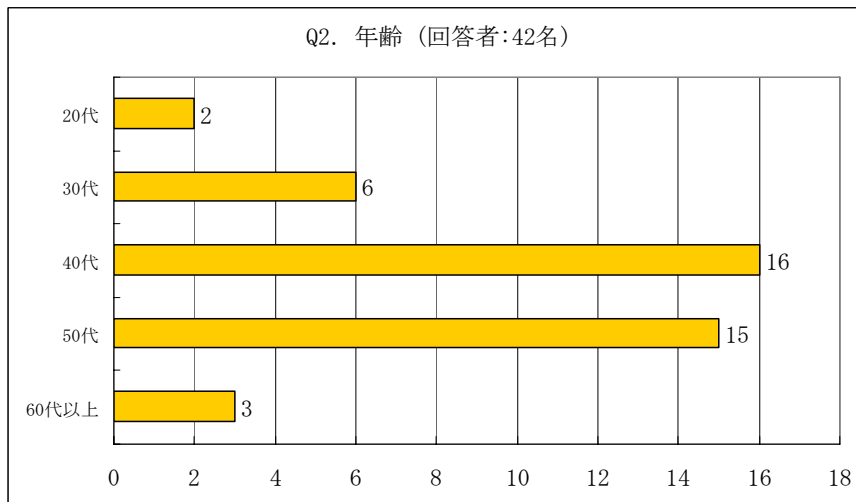
以 上

《 研究成果発表会 アンケート調査結果 》

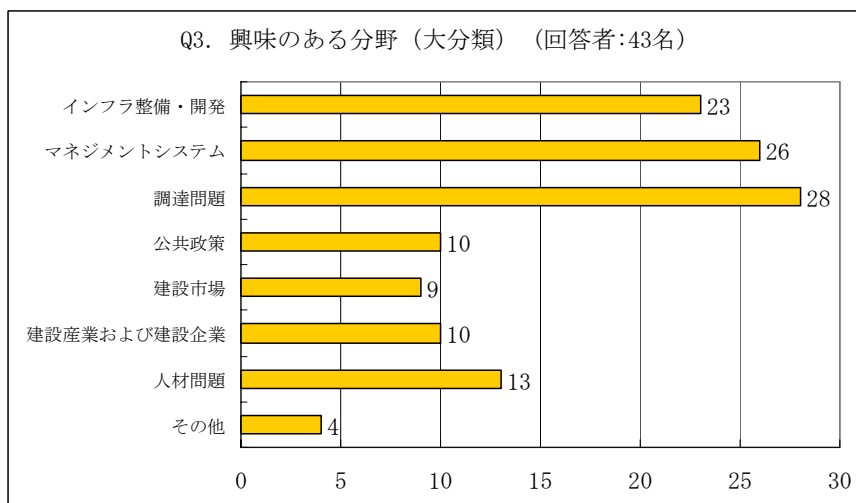
(1) 回答者の所属構成



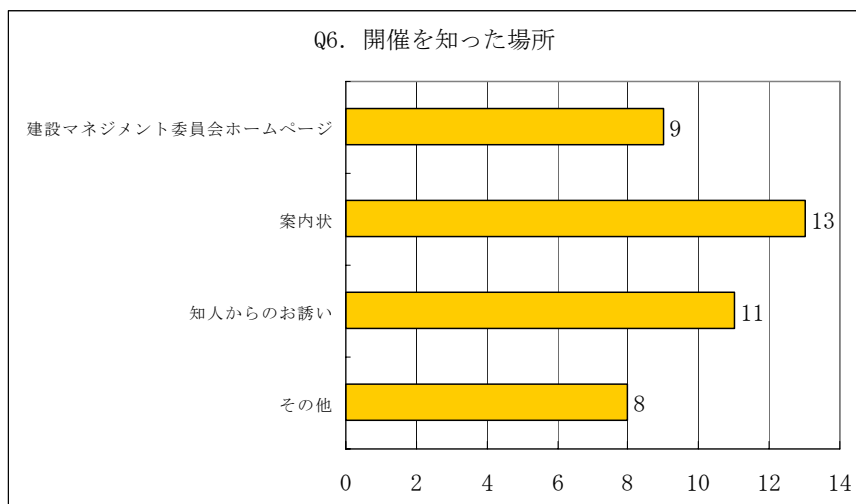
(2) 回答者の年齢構成



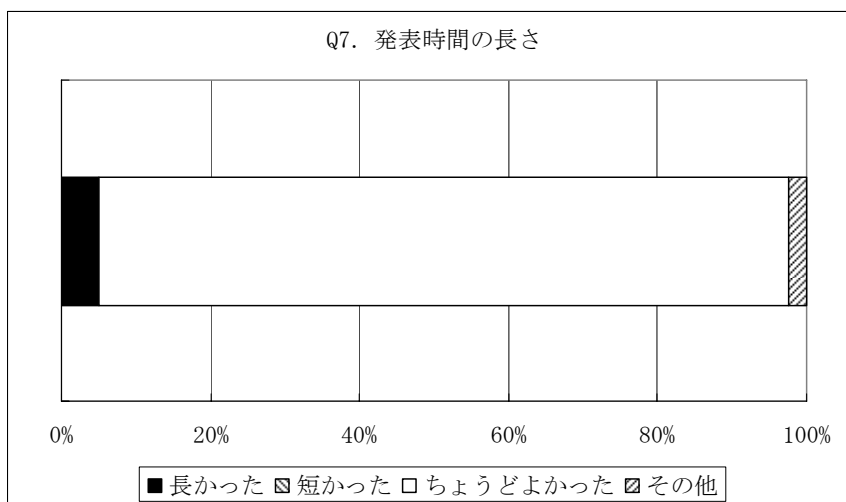
(3) 興味のある分野 (大分類)



(4) 開催を知った場所



(5) 発表時間の長さ



(6) 参加目的の達成

